

## 開会挨拶

### 就職問題委員会

中 明 夫 委員長

皆さん、こんにちは。

今年の私立短大就職担当者研修会に、このように全国から多数の方にご出席いただき、本当に有難うございます。

今年の夏は、非常に天候不順でして、西日本の方はものすごい猛暑、名古屋から東京のエリアではものすごい大雨、また東北、北海道の方は、かなり雨の日が続くなど、本当に夏の天候が不順でした。いろいろ仕事にも差し障りがあったのではないかと思います。この研修会の3日間、札幌地区は極めて素晴らしいいい天気というように今朝の天気予報で言っていましたので、昼間の研修会に一生懸命取り組んでいただきますと同時にアフターファイブ、と言いますかアフター研修といいますか、夜のひと時は是非、楽しく素晴らしい時間をお過ごしいただければと思っています。

さて、私立短大の置かれている状況は、非常に厳しい、ということを何度もいろいろな処で耳にされていると思いますが、現在、日本私立短期大学協会では、これからの短大のあり方というものを、きちんとしたビジョンとして会員校の皆様にお示しする必要があるということで、昨年の秋の総会におきまして、検討のための特別委員会を発足させるということが決まり、現在、「短期大学のこれからのビジョン」というものをまとめている最中です。来月、日短協の総会が福岡で開催されますが、その時にその委員会で検討し、一定の方向性をまとめたものを報告する予定になっております。その中で、当然のことながら、短期大学の役割を列挙する中に、職業教育というものの役割を短期大学が担うということを強調するような内容が盛り込まれる予定です。

一方で、実は専修学校の団体の方から、長年に亘って職業教育を担ってきた専修学校の存在意義を国として十分に認めて欲しい、具体的には、専修学校を大学と同等に位置づけて欲しいという要望が、昨年の暮れあたりに正式に文部科学省にだされまして、現在、文部科学省においてそのための検討会議が開催されております。

そのような環境の中で、短大生が2年間、就職に向けてどのような知識、能力を身につけ、どのような能力を持った状況で卒業させるか、かつ短大生がどのように社会に受け入れられるのかということに、就職担当の皆様方は、日夜苦慮されていることと思います。

先般、何人かの方から、短大が長年担ってきた、特にいくつかの専門職業に関して、その専門職として就職している短大生が、必ずしも十分にその専門知識、能力を評価された処遇になっていないのではないかとというようなことを耳にしております。そこで、今年、就職問題委員会では、短大生の専門職としての資格を持った卒業生が、本当に噂として耳にしているような、処遇面で極めて冷遇されているようなことがあるのかどうか、問題の所在、それから実態がどのようなになっているのかを具体的に調査し検討するというのを、今年度の就職問題委員会の取組みとして、委員会の活動テーマとして取り上げております。

ただ、このような問題につきましても、一回の調査だけで全貌が把握できるというような簡単なものではございません。今後いかに実態を把握し、それについて、養成機関としての短大の責任・役割というものをどのように自覚し、場合によっては関係機関に適切な働きかけをしていく必要があるということを考えますと、これは非常に大きな問題であると認識いたしております。今日、これから、この研修会において、いくつかのプログラムを開始し、明日はグループ討議等を行っていくわけですが、是非、このことに関しても、日ごろ就職支援をされている中で感じられるさまざまな情報を意見交換していただきたいと思っております。

毎年、いくつかの目的、テーマを考えて、研修会のプログラムを組み立てております。常に念頭において取り組んでおりますのが、それぞれの会員校におかれまして、短大生にどのようなキャリア教育、別の言い方をすれば職業教育をすればいいのかという、それぞれの経験、あるいは苦労話を意見交換することによって、おのおのの短期大学における学生の就職面での指導に役立てるとというのがこの研修会での第1の目的であります。

2点目は、場合によっては遠隔地から受け入れている学生のために、故郷に帰って就職したいというようなニーズに応えるときに、その学生の故郷の立地にある短期大学の就職担当の方たちと連絡を取り合って、その求人の情報を相互に補完しあうようなことができるよう、この研修会に参加された方がお互いに名刺交換なりして、学生のためのネットワークづくりを心がけていただく、これが2つ目のこの研修会の狙いであり、目的としています。

そして、今回、特に3つめの課題として、先ほど申しあげました短大生が就職をしたときの実際の職場での処遇が、本当に、特に四年制大学等々の卒業生と比べて著しく不公平な、あるいは冷遇された扱いになっていないか、これをそれぞれの短期大学の卒業生を就職面でのお世話をされている担当者の方同士で情報交換していただきながら、そこで、もしそういうことに対しての問題が浮かび上がってくるような状況になった時に、私どもの就職問題委員会として、それを真正面で捉え、それを今後どのように解決していくのかということを実際に考え、さらに取り組んでいきたいと思っております。

3日間、正味2日間の短い研修の期間ですが、このような目的を今回のプログラムの取組みの中に織り込んで、密度の濃いプログラムを企画させていただいております。

今回の研修会の主催は、資料集の表紙に書いてございますけれども、財団法人私学研修福祉会という団体が主催ということになっております。運営に係わる協力を日本私立短期大学協会が担っております。かつ日本私立短期大学協会の中で、先ほどから何度も申し上げております就職問題委員会という委員会の委員が今回の研修会の運営にあたらせていただいております。今日から足掛け3日間、どうかいろいろなお土産の情報を是非持って帰っていただきますように、切にお願いと期待をさせていただき、開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。